

2年生 英語 小研 Unit 2 *Food Travels around the World*

時間：令和6年5月14日（火）4限目

教室：2年3組教室 授業者：甲斐 旭

1. 英語科における「学びを発揮する生徒の姿」

社会や世界、他者との関わりに着目して目的・場面・状況等を捉え、その達成のため、主体的・自律的にコミュニケーションに取り組む生徒

2. 英語科（2年生）における「学びを発揮する生徒の姿」

他者との関わりに着目してその背景にある文化などをふまえて目的・場面・状況等を捉え、その達成のため、主体的にコミュニケーションに取り組む生徒

3. 授業の概要

令和6年度の研究では、学びを発揮する授業を見据えた授業において、目的・場面・状況等へのメタ認知、内容・表現へのメタ認知、精査・解釈を促す自己関連を手立てとして、生徒が見方・考え方を働かせ、自らの力で英語科の学習過程を回すことができるようにするための指導を行なっている。生徒が学びを発揮する中で自在に見方・考え方を働かせることができるようになることは、総合・特活の場でも教科横断的に見方・考え方を働かせる基盤となると言える。また、自らの力で学びを調整していくことは、エージェンシーの育成にもつながるものであり、本校で育成を目指すキーコンピテンシーの育成にもつながっていくと考える。

本時では2年生の1学期序盤という現状を考慮し、**学びを発揮する授業を見据えた授業**を行う。本時においては、スピーチをしている教科書の登場人物（フィリピン人の Josh）に対して、生徒が適切なコメントをすることを通して、以下のことができるようになることを狙いとしている。

①登場人物の状況を捉えること（＝目的・場面・状況等へのメタ認知）

②その状況を踏まえて何を伝えるべきか見通しを持つこと（＝内容・表現へのメタ認知）

そのために、登場人物の状況を確認する際に、その人物の背景を捉える発問をしたり、文化的な差異に気づくための発問をしたりすることに加え、それらを構造化した板書をするによって生徒自身が状況を捉えることができるようにしたい。

4. 本単元の課題と本時における生徒の姿（見方・考え方を働かせる姿）

（1）本単元のパフォーマンス課題（Unit 2 *Food Travels around the World*）

グローバル化が進み、熊本にも多くの外国人の方が来ています。そこで附属中では食育栄養課の企画として、外国人に日本料理の魅力を知ってもらうために、Japanese Food Festival を開催することになりました。みなさんには、日本料理をアピールするためのコマーシャル作りが依頼されています。日本料理について、それぞれ1分以内のコマーシャルを作成してください。

（2）本単元における重点指導事項

①対象（＝外国人）の状況へのメタ認知（＝目的・場面・状況等へのメタ認知）

②①をふまえた日本料理の概要の整理（＝内容・表現へのメタ認知）

(3) 本時で見取る生徒の姿

カレーに関心を持っている登場人物のスピーチを聞き、登場人物の状況をふまえて要点を捉え、それに応じて適切なコメントを返すことができる。

例えば、本時までの Josh の状況として、フィリピン出身であること、小学生時代から日本に住んでいることなどの情報が明らかになっている。加えて、本文の内容からは、Josh が数ある料理の中からカレーに関心を持ったこと、フィリピンにはないカレー料理に特に興味を持っていることを読み取ることができる。以上のことをふまえて、Josh の状況として、「日本料理については馴染みがある一方で、自分の国(=フィリピン)との差異に興味を持ち、特にカレーについて紹介している」ということを生徒が捉え、整理した上で適切なコメント(=自分の考え)を返すことができるようにしたい。

5. 学びを発揮する姿との関連

(1) メタ認知

生徒がコミュニケーションの目的・場面・状況等を自分の力で捉えることは、学習過程を自分の力で回すための第一段階であり、その段階への指導は必要不可欠である。そのために本単元では、Josh の状況を教師との QA を通して整理したり、自分と Josh との差異について生徒同士の対話を通して共有したりすることを手立てとしている。

また、本時にあるように相手に対してコメントする際には、コミュニケーションの見通しを持ち、目的に応じて情報を整理した上で自分の考えをまとめることが必要である。そのために、単元を通して教科書本文にある様々な料理の概要を整理する経験を積ませる。その際、ワークシートや板書の工夫を行い、生徒自身が何をどこまでまとめれば良いのか、対象との関わりの中で捉えられるようにしたい。加えて、活動形態を工夫し、モニタリング役を設定して他者モニタリングを行わせることで、自己モニタリングへつなげる手立てとしたい。

(2) 自己関連

Josh の状況(背景にある食文化)を整理する際に、自分(日本の食文化)と比較して考えさせることで、集団(=フィリピン全般)に関する自己関連を促す。そうすることで、パフォーマンス課題にある「外国人の状況」を自分の力で捉えることにつなげたい。